

わかすげ

題字 院長 神 雅彦



題 野辺地病院 山田 芳松・作

わかすげの由来：菅（すげ）は、繁殖力の強い植物で、古来から当地域には、菅笠、菅畳、菅枕等々生活に欠かせない貴重なものであった。

当院の看護師寮に「わかすげ寮」と名づけられているように、将来に期待される力強さと若い菅（職員）が地域医療の確保に一層努力することから。

基本理念

- ・患者さんの意思を尊重し、
信頼される医療を提供します。
- ・研鑽に励み、質の高い医療を提供します。
- ・保健・福祉と連携し、
心あたたまる医療を提供します。

巻頭言

歯科口腔外科
古川 雅子



病院歯科の役割について

当病院に赴任して17年。時の経過の早さを痛感しています。

先日、矯正研究会で、菅原助教が「臨床も学問も実に奥深い。一のゲートをくぐり抜けると、もう一つのゲートが待ちうけている。おごる事なく、意固地になる

事なく、学問に好奇心を失すことなく、常にしなやかにありたいものだ」と述べられた言葉に感動しています。先生はインプラント矯正の先駆者です。

2003年に、ヒトゲノムの最終稿が発表され、生命科学の進歩は目ざましいものがあります。ポストゲノム時代の臨床医学として、多因子疾患の解明、テーラーメイド医療、EBMに基づく医療、再生医療等の研究が盛んになっています。歯科分野では、再生医学の領域で、顎骨の再生と歯の再生がチャレンジされています。クローン羊、牛が登場しクローン人間の製造さえも可能になっているようです。

日本の医療をみると、少子高齢化の急速な進行、医療費の膨張と経済の衰退により、保健医療制度は、大幅な改革を余儀なくされています。歯科界では、歯科医師不足から一転し過剰供給となっています。歯科医療の現状は厳しく、病院歯科も、他科に比較して低収入、不採算性等の原因により廃科となる場合もあるようです。しかし、病院歯科受診率の高さがあり、質の良い医療を求める患者サイドの自由な選択の結果であることを示唆しています。療養型病床群の設置に伴って、新設される病院もあります。高齢社会の形成により、有病者の急激な増加があり、有病者歯科医療の担い手としての要求であろうと思われます。経済性と合理性を重視する現在の医療体制の中で、歯科医療の質を維持しつつ運用を効果的に行う為、病院歯科の整備充実が必要であると提言されています。

病院歯科の機能としては、1. 口腔外科疾患を中心

とした高次歯科医療に対する地域支援機能、2. 有病者・障害者・感染症者、要介護患者に対する後方支援機能、3. 教育研修機能の3項目に集約されます。病院歯科の現状、展望について、2000年度の報告があります。全病院数9413中1474（約20%）が歯科を併設しています。自治体病院数1075の32.9%（全病院の3.7%）が歯科を有しています。これらの歯科施設は、非常勤歯科医師のみが勤務する施設、医科歯科大学附属病院、国立センターや自治体病院、一般病院の歯科施設等設立母体、規模等、又診療の実態や機能において多様です。地域性（都市型、地方型）、病床数（200以下、200～400、400以上）常勤歯科医師数、慢性型か急性型の病院か等で特徴的な傾向が認められます。一次医療を必要として設置された地方型、200床以下、常勤歯科医師数1の歯科施設に、低収入、不採算性があるとの調査結果です。打開策として、有病者等の患者に対する後方支援機能を担う（専門医科と高度な医療機器を有する事から全身管理を含めた1.5次医療の提供が可能である）、外科的歯内療法、歯周外科、難度の高い抜歯、インプラント適応拡大手術等を効率よく提供する。現在看護職からなされている入院患者の「口腔ケア」を歯科指導の領域として捉えていく事が挙げられます。もちろん開業医の立場のみになされている診療報酬の改善も必要です。

病院歯科は、有病者診療の受け皿として、入院患者の歯科保健医療の指導的存在として、地域歯科医療支援病院のない地域の現存する施設を機能的に特化することが可能である事等から必要であると結論されています。

当科を振り返って、上記のように変化してきていると、或いは変化を余儀なくされたと思います。これからも努力を続けて行く事が必要不可欠でしょう。最後に歯科においてはハードがものを言います。ハードなくしては、歯科医療の向上は困難です。それらの点は、病院側に何卒宜しくお願ひしたいと思ひます。

新ドクター紹介



整形外科
医療局長
澤田 雅章

- 1 青森県 弘前市
- 2 昭和37年5月1日
- 3 フィギュアとカメラ
- 4 特にありません
- 5 病院の建物の構造が入り組んでいるため、患者さんにとって必要のない傾斜面が多い。
- 6 事故のないようがんばります。



小児科医長
敦賀 和志

- 1 北津軽郡 板柳町
- 2 昭和47年4月18日
- 3 スキー、釣り
- 4 笑顔
- 5 広いうえに迷路、迷子になります。
- 6 一人でも多くの子供達を笑顔にできるよう頑張ります。皆様の御協力よろしくお願いします。



内科副医長
菊池 英純

- 1 八戸市
- 2 昭和51年10月23日
- 3 野球、テニス、ドライブ
- 4 一期一会
- 5 スタッフの方が優しくて仕事をしやすいです。
- 6 現場が少しでも明るい雰囲気になるように頑張りたいです。

- 1 出身地
- 2 生年月日
- 3 趣味
- 4 座右の銘
- 5 野辺地病院の印象
- 6 抱負

OB便り

病院経営雑感

元事務局総務課長

長井 得三



30 数年に及び公立野辺地病院勤務退職後、8 年間に亘り広域複合合併した北部上北広域事務組合の監査委員として、病院経営の実績、実態を見て参りました。その一端の雑感を述べて見たい。

公営企業とは言え健全経営に努めなければなりません。しかし、公的病院として不採算部門である救急医療、高度医療を抱えねばならない宿命にもあります。永年赤字経営に苦しんでいた当病院も、病院事業健全化計画策定のもとに、管理者、職員による経営努力と経費節減に努めた結果、平成 12 年度、平成 13 年度において赤字基調を脱却し純利益を生じ黒字経営となったところである。さらに平成 13 年度に念願の不良債務額を解消することが出来ました。しかし、平成 14 年度では診療報酬マイナス改定や高齢者医療費の自己負担増に伴う受診控えと小児科常勤医師不在による入院収益減少から、現金支出を伴わない増改築した建物、高額医療機器等の減価償却費を含んでいるとは言え、純損失を生じたのは誠に残念であり、経費削減には限度があることから病床利用率向上等、今後の病院経営に期待したい。

県の保健医療体制は市町村を単位とし、日常発生する一般的疾病に対応する一次保健医療圏、専門性の高い医療サービスを提供する二次保健医療圏、さらに県全域を対象とし、極めて専門性が高い医療を提供する三次保健医療圏の構造となっている。当病院は、上十三地域の二次保健医療圏の、中核的な役

割を担う病院を目指し、他自治体病院との広域的再編の機能連携を積極的、組織的に促進する必要がある。県内 30 自治体病院の殆んどが経営悪化と医師不足の二大慢性病に悩まされている現状にある。医師不足は治療機能を一段と低下させ、赤字の膨らむ要因となっている。

病院に必要な医療法上の医師数は標準人員といい、前年度の外来と入院患者数から割り出され、外来患者は 40 人、入院患者においては 16 人に 1 人の割合で増える計算になる。この標準人員を（いわゆる医師充足率）60%下回った場合「標欠」といい、罰則として病院の収入源である診療報酬がカットされる。

平成 16 年度より、新卒医師の 2 年間の臨床研修必修義務化による医師不足が更に想定されることから、管理者、院長には医師の定数確保に充分対処し、地域住民に安心と信頼される医療サービスの提供を望みたい。

新年度より、地方で深刻化している医師不足問題で厚生労働省などが自治体、医師会、大学が参加して医療対策協議会を設置し、医師の確保、配置について県などの地域単位で協議、検討に入ることとなったのは嬉しい限りで、早い機会の対策を期待している。

職場紹介

臨床検査科 主任臨床検査技師 西村 司

臨床検査科は、検体検査（生化学・血液・一般・血清）と細菌検査、生理検査部門に分かれています。

当科は敦賀技師長を先頭に、細菌マニアの那須副技師長、アウトドア派の野坂総括主任技師、野球大好きのア部主任技師、佐々木主任技師、検査科の母こと木村主任技師、末娘の吹越主任技師、駒井主幹、そして健康オタクの私西村の総勢9名で構成されています。

検体検査部門は、平成10年に生化学・血液・一般・血清の自動分析機をシステムでオンラインし、ワンフロア化して30分迅速検査と微量検査、そしてFAX 報告により看護支援を実現しました。また、夜間緊急検査は24時間体制で診療を支援しています。微生物検査部門では、細菌の検出や薬の効果などの検査をしています。そのデータは県の食中毒注意予報に情報を提供しています。生理検査部門では、運動負荷心電図検査・24時間ホルター心電図検査、そして数年前に開発され動脈硬化検査を項目に加え、高齢化に伴い増加している循環器病の検査を中心に行っています。脳波検査は近隣の病院からの依頼にも対応しています。

また、検査業務の他に糖尿病療養指導士の資格に加え糖尿病教室を担当し、水道管理の資格を取得し病院



の水質管理を行うなど新たな業務に参画しています。学術活動では、専門学会、医学検査学会での発表を積極的に行っており、認定臨床微生物検査技師や健康運動指導士の認定を受けるなど研鑽にも励んでいます。その結果、これまでに自治体病院研究論文顕彰や臨床検査技師会奨励賞を多くの技師が受賞しています。院外の活動では、それぞれが趣味を活かし野球部は県大会で優勝し全国大会出場をはたしています。

臨床検査技師は、患者様との接する機会が少ない職業ですが開かれた検査室を目指し、最新の検査技術を学び地域医療に貢献出来るようスタッフ一同努力を続け日々の業務に取り組んでおります。

南3階病棟 看護師 高城 淑子 折田 円

私達、新人2人が南3階病棟で働くようになって、早いもので1年が経とうとしています。新鮮な目で、南3階病棟の紹介をさせていただきます。

南3階病棟は、外科、脳外科の混合病棟になっており、チームも外科、脳外科の2つに分かれています。スタッフは、外科Dr3名、脳外科Dr1名、看護スタッフは、崩出看護長を先頭に、20名で日々頑張っております。

外科には、手術、ターミナル期の疼痛コントロール（終末期医療）、透析等を必要とする患者様が入院されます。手術を必要とする患者様が多く、その不安や恐怖に触れ、どう関わるべきか常に考え最善を尽くす努力の毎日です。外科スタッフは、個性も三様の副院長高屋先生、藤田先生、野田頭先生の3名と、優し



く元氣な看護師でいっぱいです。最近では、治療経過を患者様・スタッフ共々明確にし、進める事が出来るような体制を整えるといった新たな事への取り組みも積極的に行っています。

脳外科には、一般的に脳卒中と言われるクモ膜下出血、脳梗塞、脳出血と診断された患者様が入院します。今まで元気に生活していた人が突然発症するため、患者様自身のショック、ご家族の方はパニックになってしまうことも少なくありません。また急性期を過ぎ、落ち着いても片麻痺や言語障害等の後遺症が残る可能性があり、急性期では、血圧コントロール、呼吸・循環管理、慢性期ではリハビリ、また急性期、慢性期を通し、精神的なケアが必要になります。脳外科のスタッフは、クールですが、優しさのある中野先生、観察力、洞察力が鋭い、笑顔の絶えない、パワフルなチーム員がそろっています。

新人2人の目から見ても、チームの垣根を越えた素晴らしいチームワークで、いつも声をかけ、助け合っている病棟だと感じています。そして、忙しい日々の中での喜びは、何より患者様が元氣になって笑顔で退院されることです。ある本の中にこんな言葉があります。「看護は与えて、また受けとるもの。看護は支えて、支えられるもの。」まさに看護はこの言葉の通りだと考えています。

これから春を迎え、ますます南3階病棟は忙しくなってくると思いますが、常に患者様、ご家族の方とのコミュニケーションを大切に、患者様のための看護をしていきたいと考えています。宜しく願います。

お知らせ



お願い

正面玄関前に障害者用駐車スペースを整備しました。一般の方は他の駐車場を利用してください。ご協力をお願いします。



中央カルテ方式採用

従来、外来診療カルテは、各科で管理しておりました。

平成16年1月28日(水)より、すべての外来診療カルテを医事課内に収納し、1人の患者について1つのファイルで管理することと致しました。

(中央カルテ方式)



食堂新装オープン

閉店のため皆様には大変ご迷惑をおかけしておりました食堂が昨年11月24日より「だるま亭」として新装オープンとなりましたので、どうぞご利用お願い致します。



営業時間

平日、第2・4土曜日

10:30~18:30

日・祝日、第1・3土曜日

11:00~18:30

病院現状説明会

1月23日(金)16:00から野辺地病院講義室において、来賓者50名・職員62名計112名の出席のもと、院長より病院現状説明会が開催されました。

たくさんのご出席ありがとうございました。



原稿募集のお知らせ

「わかすげ」編集部では、広く読者の皆様から原稿を募集します。病院に対するご意見、ご感想、詩、俳句、短歌など、ご応募お待ちしております。



編集後記

若葉薫る季節、新年度スタートです。緊張でいっぱいの人々を迎えるこの時期になると、20年前の自分を思い起こします。

一番困ったのは、「ギョーカイ用語」と「ギョーカイの常識」。

「ネッパツ」って? 「ヒョーチン」って? でもいつの間にかそれに違和感を覚えない自分に一番びっくり。

カルテ開示もそこまで来ています。

どうか、かわいい後輩達よ、普通の言葉を使える職業人になって下さい。

「わかすげ」も早いもので第5号発行となりました。わざわざ読後感想を届けて下さる皆様、お忙しい中原稿をお寄せ下さる皆様に感謝いたします。

編集委員

澤田 雅章(医局)	成田 一教(医事課)
野坂 嘉友(検査科)	四戸 まるみ(看護局)
阿部 俊郎(薬剤科)	松村 明美(看護局)
前田 ひとみ(看護局)	清水目 健一(管理課)
村山 清茂(事務長)	

平成16年4月30日発行
 広報「わかすげ」第5号
 発行：北部上北広域事務組合
 公立野辺地病院
 〒039-3141
 青森県上北郡野辺地町字鳴沢9-12